

本書の冒頭で著者の工藤勇一氏（現横浜創英中学・高等学校校長）は、教育現場の問題点として、「当事者意識のない日本人、子どもに手をかけすぎる大人たち、学校をおかしくしている手段の目的化」を挙げる。

前職が千代田区立麹町中学校校長だった工藤氏は、この解決に向けて同校の改革をリードした。

それだけであれば、世間は工藤氏の経験則として片づけてしまっただろう。しかし、その背景には確固としたエビデンスがある。

工藤氏が取り入れたのは、「神経科学」という最新の脳研究。人間の脳の仕組みを分子・細胞レベルで解明し、分かったことを医学や社会生活にフィードバックしていく新しい学問だ。これを教育にフィードバックした知見が、最近よく目にする本書のキーワード「心理的安全性」と「メタ認知能力」である。

学校経営の実践にエビデンスを与えたのが、もう一人の著者、

最新の脳研究でわかった！

自律する 子の育て方

工藤勇一 青砥瑞人

工藤勇一・青砥瑞人 著

990円 SB新書
☎03-5549-1100

最新の脳研究でわかった！ 自律する子の育て方

青砥瑞人氏。本書では、神経科学の専門家である青木氏が「心理的安全性」について学問的な研究成果を踏まえた知見を整理して示した後、工藤氏がこれを学校の中でいかにして実現させていったか、取り組むべきポイント、子供や教師の変容などを例示する。メタ認知能力についても同様に両面から論じている。

本書の冒頭では、「激動の時代に最先されるべき個人の資質は、自分で考え、判断し、行動できること」ではないかという問いかけもなされている。実は私も50年前に同じことを学級経営案に書いた。50年たっても課題が解決されていないところに、わが国の教育の問題の根深さを感じる。視点の明確な解決策を本書から学んでほしい。

（教育調査研究所・寺崎千秋）



1988年の「世界時価総額」のランキングでは金融業と自動車産業が多くを占め、トップ30社のうち21社が日本企業だったが、現在は、ほとんどが他国のIT企業に置き換わった。だが、日本は30年間、第二次産業革命の時代の産業と教育に固執した結果、トップ50社にトヨタが1社残ったのみだと本書は指摘する。

また、日本では、「未来の教室」の「学習の自立化・個別最適化」は、諸外国のようなビッグデータとそのAI制御を伴っていない点で、50年前の「プログラム学習」や「完全習得学習」と類似した「学習の個別化」の域を出ておらず、協同学習とのつながりを失っている点から言っても、15年前のICT教育のレベルを超えていないと批判する。

さらに、ICT教育の効果に

第四次産業革命と 教育の未来

ポストコロナ時代のICT教育

佐藤 学

佐藤 学 著

682円 岩波書店
☎049-287-5721

第四次産業革命と教育の未来 ポストコロナ時代のICT教育

1988年の分析結果を引き、読解リテラシーにおいても数学リテラシーにおいても、学校でコンピュータの活用時間が長時間になると、学力は低くなることを示しているという。

これについて著者は、コンピュータは情報や知識の獲得や浅い理解には有効だが、深い思考や探究的な学びには有効ではないというPIISA調査委員会の見解を引き、批判的思考や探究的思考による学びは、顔と顔を突き合わせて行う協同的学びが最も有効だと主張する。

評者は考える。これまでのわが国の教育は、つい最近まで、ポップカルチャーやパソコンなどに傾注する子どもたちの変革力を評価できないまま、過去の価値に固執してきた。今後は、多様性を確保するともに、ICTと「深い学び」によって新しい価値の創造への転換を図る必要がある、と。

（前聖徳大学教授・西村美東士）

子ども「一人一台端末」の
その先は？新型コロナウイルスによって社会が激変するなか、
未来を担う子どもは未来をどう生きる？

岩波書店

岩波書店

岩波書店

岩波書店

岩波書店

岩波書店

岩波書店

岩波書店

岩波書店

岩波書店